



## さし木に黒いおおいをするのはなぜ

水の吸い上げが悪いので、葉からの蒸発を少なくする

さし木したばかりの枝は、まだ根がありませんので、水の吸い上げが十分にできません。強い日光にさらされると、葉からの蒸発で水が失われ、しおれてしまいます。さし木に黒いおおいをして暗くするのは、日光をさえぎるためです。さらに、葉からの蒸発を押しさえるため、さし木の葉は少ないほうがいいのです。2～3枚を残してほかはつみとり、残した葉も、上半分を切り取ったりします。

根をはやく出させる

また、暗くすることで、根も出やすくなります。根を早く出させるというのがさし木を成功させる上で一番大事なことです。

若い枝は、たくわえている養分が多く少なく根の出が悪く、老化したものも根の出はよくありません。枝を選ぶことが大事です。

さす前に、木の皮を環状にはがしておくとも栄養分がたまり、発根しやすくなります。さらに、発根を助けるホルモンなどで処理することも行われています。

けっきょく、根が出る前にかれてしまわないように黒いおおいをしているのです。

さし木の種類

さす部分によって、枝ざし、葉ざし、根ざしとよばれます。(監修・中山 周平)

